令和2年度 ワールド・カフェ形式で本校初の道徳の学習（道徳教育の一環）を実施しました。

1　実施目的　　教材「きたものがたり」（北海道教育委員会作成資料）を参考に自作した新渡戸稲造に関するテキスト「新渡戸稲造から学ぼう」を用いて、国際理解・国際貢献と望ましい生活習慣に関する学習を通して道徳性を養うことを目的としました。対話を通して多様な人生観や世界観、価値観を知るためにワールド・カフェ形式で道徳の学習を実施しました。

2　実施日時　　平成２年１１月６日（金）１４：２０～１６：００

3　実施場所　　本校第一体育館

4　参加人数　　３０４名（当日の欠席者は１８名）

5　実施内容

（1）自作テキスト「新渡戸稲造から学ぼう」を１０月中旬に配布し、生徒に熟読を要望しました。

（2）ワークシートを１０月下旬に配布し、事前学習事項を記入させて、クラウド上に保存しました。

（3）事前アンケートを当日の昼休みにグーグルクラスルームに配信し、回答を要望しました。

（4）ワールド・カフェで事前アンケート結果をスプレッドシートで投影し、ワールド・カフェへの思いを調査し、その結果を示しモチベーションの向上に繋げました。

（5）ワールド・カフェの実施

各ラウンドでは、以下の３点を共通テーマに設定し、対話を進めさせました。

（あ）当時の国連事務総長が、新渡戸を賞賛した理由は何でしょうか。また、このことから何を学びますか。

（い）新渡戸が説く「貯蓄」は、みなさんに何を伝えようとしているのでしょうか。

（う）あなたとっての国際理解とは何でしょうか。また、具体的に何をしたいですか。

初めての環境下でもコミュニケーションをとるスキルを身に付ける目的で、ラウンド１では、誰一人として同じクラスの生徒がいないグループを形成し、対話が為されました。



写真１　事前アンケートの結果について



写真２　ラウンド２に向けた移動の様子



写真３　クロスへの書き込み

最初は、多くの生徒が緊張感で一杯であったためか、対話がスムーズに行われませんでした。しかし、自由にチーム替えをしたラウンド２では、一変して活発な対話が全てのチームで行われるようになりました。生徒たちの大きな変容です。

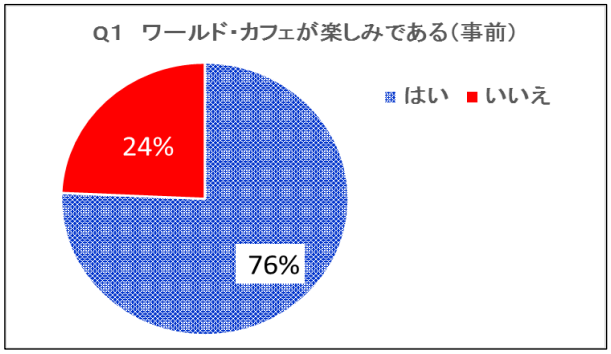
対話を通して、自分の考えや相手の考えなどをテーブルクロスに書き込みます。それは、次のラウンドで参加する旅人のために書き込まれたものでもあります。

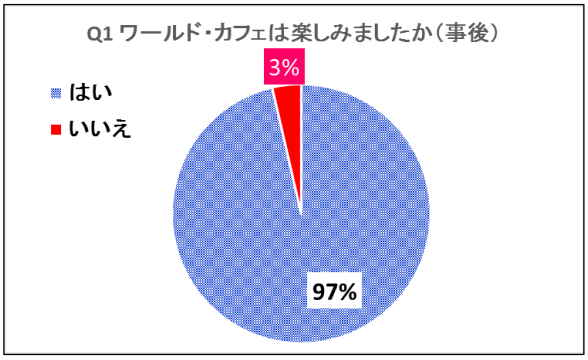
最終ラウンドでは、他のチームの考えや心情に関する情報を収集し、それぞれについて報告しながら自分の考えや心情を確立していきました。

6　事前アンケート及び事後アンケートの結果について（ ML 通信第８号からの抜粋です ）

グーグルクラスルームへの配信時間が昼休みであったことなどから、事前アンケートの回答者数は 218 名に留まっています。事後アンケートの有効な回答者数は 304 名です。

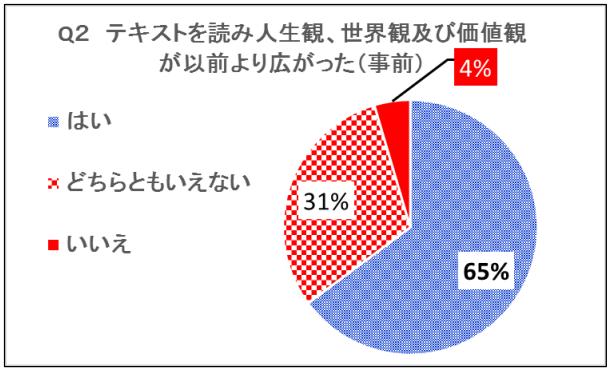
（1）**ワールド・カフェについて**

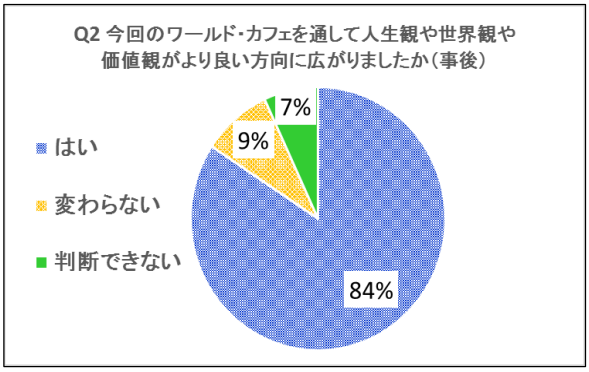




事前アンケートで 24%（53 人）の生徒が期待していなかったものが、実施後は３%（10 人）に激減しています。多くの生徒（294 人）が、楽しんだと回答していることからワールド・カフェの実施は有意義であったものと判断します。

（2）**人生観、世界観、価値観の変遷**

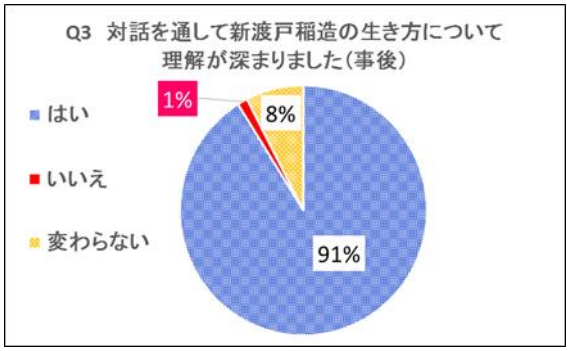


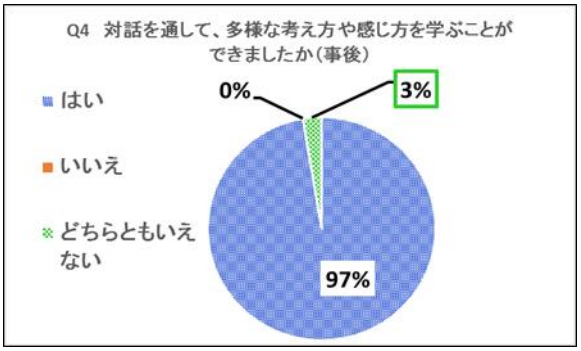


新渡戸稲造に関するテキストの読み込みだけで、人生観や世界観や価値観が変わったと回答した生徒は 65%（142 人）いたのが、実施後の実質の人数対比では 1.8 倍の 84%(257 人)に達しました。対話を通して、自分の考えや感じ方に変化が齎されたものと推察します。このことは、新渡戸稲造のテキストを熟読し、自分の考えをしっかりと持ち、また、自身の心情を冷静に受け止めた結果といえるのではないでしょうか。

（3）**ワールド・カフェ後の新渡戸稲造に関する理解度**

対話を通して新渡戸稲造の生き方について理解が深まったと回答した生徒が 91%（296 人）に達しています。このことから、ワールド・カフェでの対話を通して、自分自身の考え方や心情をより深く理解する行為が、新渡戸稲造の理解をより深めたものと推察します。





（4）多様な考え方や感じ方の学習

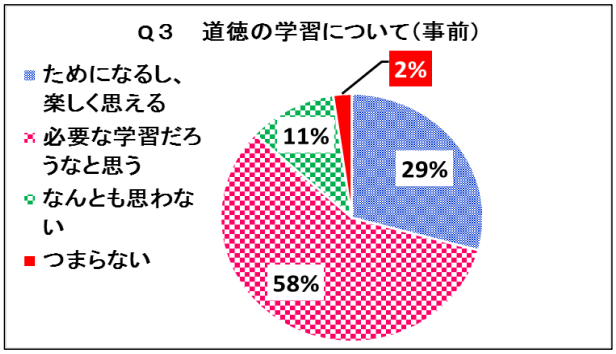
実施後は 97%（296 人）の生徒が多様な考え方や感じ方を学ぶことができたと回答しており、対話を通した「道徳の学習」に効果が認められたと推察します。

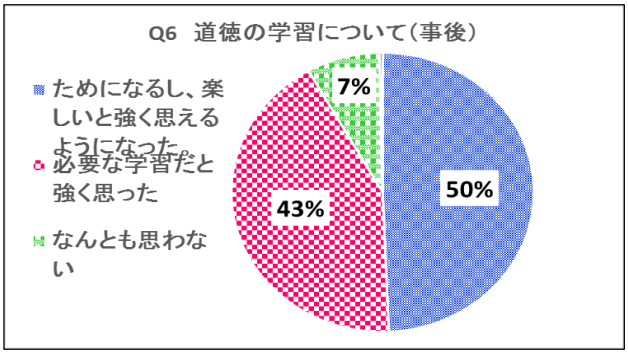
このことは、今回のワールド・カフェの実施により多様な心情や考え方があることの理解を通して、新渡戸稲造の生き方を多面的に理解することに繋がったことを示しているものと推察します。実際に、数名の生徒からは、「**自分と全く異なる考えや感じ方を他の人が持っていることを感じ取った。驚きでもある。**」という意見を耳にしました。今回

の道徳の学習としてのワールド・カフェは生徒のみなさんにとって、他者の理解という視点でも、非常に良い機会であったと評価できます。また、３％（８人）の生徒が「どちらともいえない」と回答しています。

（５）道徳の学習について

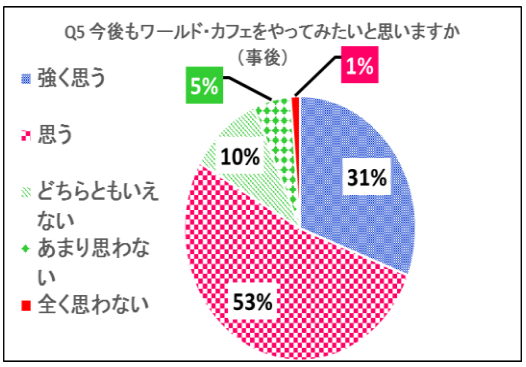
事前アンケートでは、29％（64 人）の生徒が、「ためになるし、楽しく思える」と回答し、事後アンケートでは 50％（150 人）の生徒が「ためになるし、楽しいと強く思えるようになった」と回答しています。





また、事前アンケートでは、58％（126 人）の生徒が、「必要な学習だろうなと思う」と回答し、事後アンケートでは 43％（130 人）が「必要な学習だと強く思った」と回答しています。87％（190 人）の生徒は、実施前に「道徳の学習」の必要性を感じており、実施後には 93％（280 人）の生徒が「道徳の学習」の必要性を強く感じたものと分析します。今回の新渡戸稲造を題材としたワールド・カフェ形式の道徳の学習に意義を認めていると解釈します。

（６）ワールド・カフェをもう一度！



「今後もワールド・カフェをやってみたいか」という質問に対し、「強く思う」と「思う」と答えた合算の生徒数は 81％（254 人）に達しています。多くの生徒からの良き反響に、新渡戸稲造の人生を題材としたワールド・カフェ形式の「道徳の学習」は、大きな効果があったものと判断します。また、ある生徒からは「ラウンド１では、内に篭ってしまったことを反省し、ラウンド２では遠慮なく自分の考えを述べることができ、楽しかった。また、行いたい。」と言っており、先ずは成功したものと判断し、次年度に繋げたいですね。

文責　令和２年度　北海道札幌北高等学校　道徳教育推進教師　亀谷　千代仁